



The Volunteers Group
to Send Wheelchairs
to Overseas Children
JAPAN

世界の子どもたちに 動ける自由と喜びを

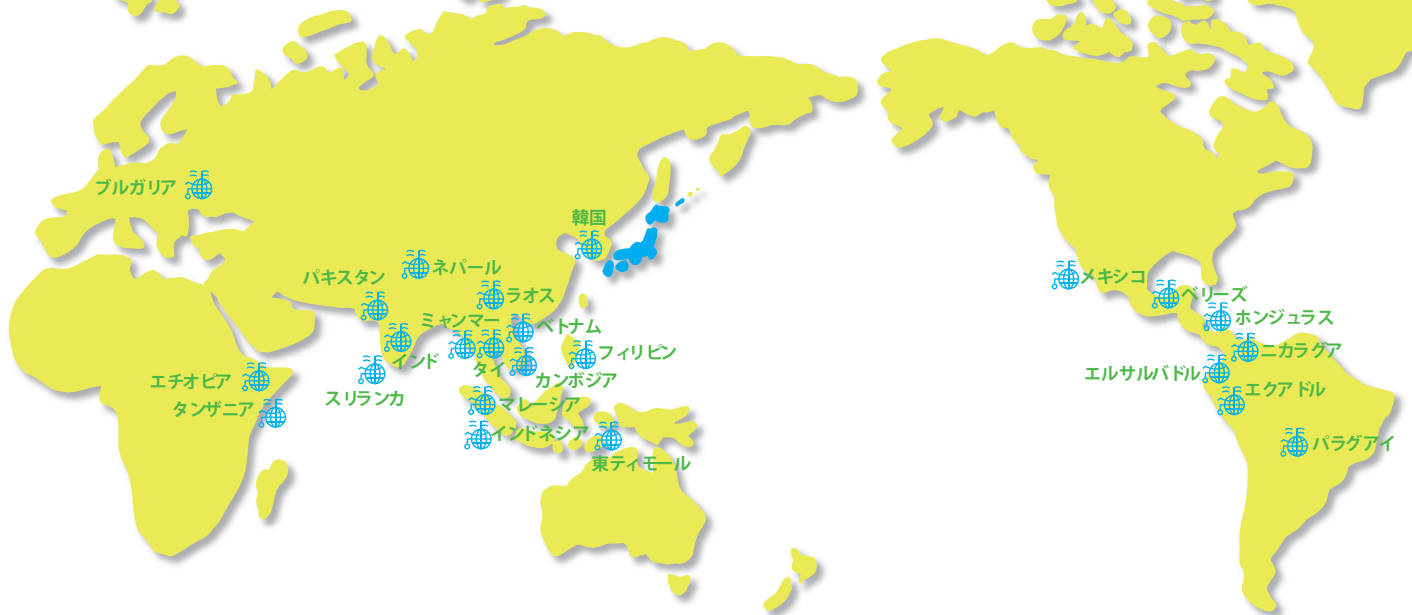


特定非営利活動法人
海外に子ども用車椅子を送る会



子ども用車椅子
これまでに
送り届けた国々

累計 **23**ヶ国
7,529台
2019年3月現在



「余命があまりないかもしれない」
がん闘病中であった私は
担当医の一言に衝撃を受けました。
脳性麻痺の子どもをかかえ、
全身にひろがるがんにおびえながら
闘病を続けてきました。
何かをしなければ、何かを残したい、
この思いが、わが子が成長して使わなくなったために
家に放置されていた障害児用車椅子を見て
海外の子どもたちに送ることに気付き
2004 年に活動を始めました。

私の呼びかけに、多くの方から共鳴と賛同をいただき
勇気づけられて活動を続けてきた結果、
2006 年当会は国内外で日本の NPO として認められ、
活動が定着してきたことは限りない喜びであり誇りに思います。

国内では多くの企業、団体、学校、
個人の皆さんのご協力ご支援をいただいたおかげで
海外の多くの子どもたちに動く喜びと笑顔が生まれました。
車椅子が彼らの自立支援や社会参加に役立つように、
これからも海外の恵まれない子ども達に送る
国際人道支援を続けていく決意です。
私たちの活動にさらなるご支援を下さいますよう
心からお願いいたします。

海外に子ども用車椅子を送る会

会 長 森 田 祐 和

発展途上国の 子ども用車椅子の実情



車椅子がないのでベッドに寝かされている
フィリピンの障害児支援施設の子ども達

発展途上国では大人介助用の車椅子を生産しているケースはありますが、障害児に適合する子ども用車椅子は、殆ど製造されていません。ほんの一部の国で海外 NGO の支援のもと、小さな作業所で自作するケースがあるにとどまっています。

大人用のなかで小型サイズの椅子を作っている国はありますが、主に移動用に利用するもので医療用のものではありません。

そのために保護者やリハビリセンターの物理療法士が座位保持や骨や筋肉の発達を助長するために子どもの状態に合わせて工夫して補助器具を作っています。

車椅子がなく不自由な生活を送っている子ども達





発展途上国では…

子ども用車椅子は現地でほとんど作られていないし、
輸入品があっても高価で入手することが困難です



障害のある子どもの多くは
家に置き去りにされて動くことも出来ず
不自由な生活を送っています



保護者や関係者が補助器具を自作するケースはまだ少ない



わが国の 子ども用車椅子の現状



首都圏の多くの特別支援学校の PTA が
会員に呼びかけて不要になった車椅子を
集めて提供してくれている様子

わが国では、多くの身障者（肢体不自由者）が健常者と共存して、幼児から障害を持っている子どもは、自分専用の車椅子を保有しています。子ども用車椅子専門メーカーも存在し、理学療法士・作業療法士や医師からのアドバイスも受けられ、かつ国、都道府県、市町村からの補助金（保護者の収入によるが、通常 9 割補助）があり、その子どもひとりひとりの身体の状態に適した車椅子をオーダーすることができます。

しかし子どもの成長は早く、車椅子はすぐに身体に合わなくなってしまいます。成長とともに容態も異なってきますので、20～30 万円と高価な車椅子を 3～4 年で買い換えることになります。今まで使った車椅子は補修整備すればさらに十分使うことができる場合でも、廃棄されてしまいます。子ども用車椅子の場合リサイクル中古品には需要がありません。なぜなら中古品に補助金は出ませんので、補助金を申請して新しく買い換えたほうが保護者には負担が少ないという実情があり 3～4 年しか使っていない非常に状態の良いものが廃棄処分されています。



日本では…



子どもの成長に合わせて3～4年で買い換えられて
これまで使われていた車椅子は廃棄されている



NPO「海外に子ども用車椅子を送る会」への提供



障害児と保護者による車椅子の提供で
国際支援がはじまる

保護者の声

- ◎海外の事情がよく分かり、車椅子がこんなに役立つとは知らなかった。
- ◎海外の子どもが車椅子に乗っている笑顔を見て子どもとのつながりを感じた。
- ◎病院の仲間にも呼び掛けたら賛同してくれて集めることにした。
- ◎子どもが海外の仲間に自分の車椅子が贈り物になって身近に感じ喜んでいる。
- ◎私たちの不要になった車椅子が素晴らしい国際貢献をしていることがうれしい。



日本と発展途上国の課題解決のためのプロジェクト

- ☆日本の高価な子ども用車椅子が、十分使えるのに廃棄されるのはもったいないという課題を解決するために、発展途上国で車椅子を必要とする子ども達に届けて、資源のグローバルなリサイクルで人道支援を実現する。
- ☆発展途上国では政府の支援も十分でなく容易に車椅子が入手できずに不自由な生活を送っている子ども達の課題を解決するために、日本から無償で車椅子を届けて、身体的精神的な健康を改善し、社会参加と自立を支援する。

当会の使命と 国内での事業内容



高校生、大学生、会社員、シニア、
在目外国人グループ、ロータリークラブなど
多くのボランティアが参加している定例会

当会の 使命

- ① 海外の子ども達に動く喜びと笑顔を届ける
- ② 資源循環型社会に向けて有効なリサイクル活用を図る
- ③ 障害者の福祉と自立支援をして差別のない社会を作る

I 車椅子収集事業

わが国では廃棄処分されている車椅子は非常に状態がよく、洗浄し修理整備すれば 新品同様に使用できるのがほとんどです。そこで当会は首都圏にある 51 の特別支援学校の PTA や学校、養育センターなどに呼びかけて、モッタイナイと廃棄処分に困っていた車椅子を無償で提供いただいています。現在では PTA の活動として会員に呼びかけて収集して、当会へ連絡いただき、業者にトラックを手配し整備する場所まで運搬しています。さらに車椅子メーカーが買い替え時に、不要になった車椅子を提供してくれます。また、当会ホームページで知って、個人が不要になった車椅子を持参される方も増えています。最近では関西の特別支援学校からも送ってこられます。



Ⅱ 車椅子整備事業

毎月当会の活動例会で収集した車椅子を、高校生、大学生、CSR 活動として企業からの社会人、ボランティア、さらに在日外国人が参加して、車椅子メーカーやシニア技術者の指導で車椅子の安全性と耐久性に留意して、洗浄、修理整備を行っています。

海外で使われる子どもの笑顔を目に浮かべながら、心を込めて整備しています。

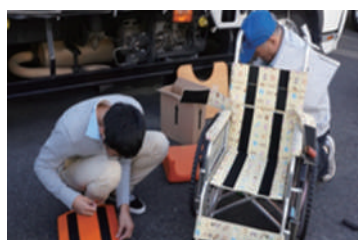
安全性と耐久性の品質向上のためのリサイクル整備内容



ごみや泥を洗浄する



車輪やクッションについて
ゴミや毛を除く



車椅子に付いた錆や垢を
落とし磨く



必要に応じてタイヤの交換



ブレーキやステップの
調整・交換



クッション・装着品の
修理・整備

Ⅲ 車椅子発送事業

車椅子一台毎に管理番号をつけて、サイズや特徴を記したリストを作るために写真を取り、重量を計測してから、輸送時に破損しないようにプラスチックのエアークラップやガムテープで梱包し、管理番号を表に書き加えます。そして倉庫に保管して、出荷時にコンテナに積み込んで港から船で目的地まで運びます。



車椅子専門技術者による
最終チェック



倉庫へ保管



コンテナで海外へ輸送する

Ⅳ 広報事業

1. 一目でわかる NPO 事業紹介冊子 「世界の子どもたちに動ける自由と喜びを」
2. 国内及び海外現地メディア（新聞・テレビ）による広報活動
3. 海外での活動内容をお伝えする「活動レポート」（年4回）支援団体・個人へ配信配送
4. 「年間事業活動報告書及び新年度事業計画書」（年1回・総会資料）
5. ウェブサイト（kaigaikurumaisu.org）による当会の詳しい事業内容と報告

海外での事業内容 ～持続的発展のために～

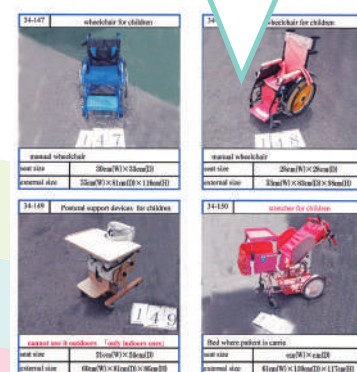
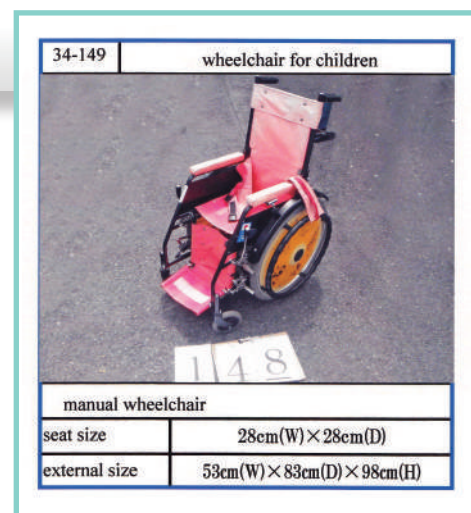


生まれて初めて車椅子に乗って喜ぶ
ヤンゴン子ども病院の子ども達

I 海外のパートナーとの事業

当会と使命と目的を共有でき、車椅子を必要とする子どもに適合するものを貸与して、責任をもって管理できる団体であることを条件に、覚書を交わしています。

- ①車椅子を送る前に、全ての車椅子の管理番号、写真、サイズ、重量、機能、特徴を記したデータを送り、物理療法士などの指導を受けて**適合する子どもの選択**をする。
- ②車椅子は受益者の**保護者と貸与契約**を交わして、適合しなくなったら返却することを確認する。
- ③日常の管理やモニタリングのために**受益者名簿**を作成し管理する。
- ④車椅子を安全に使い、維持修理に対応できるように**サービスマニュアル**を提供する。
- ⑤修理に必要な部品は当会から無償で送る。
- ⑥プロジェクト完了後毎年車椅子の**モニタリングと効果の評価**をして当会に報告する。



◀車椅子写真データ

Ⅱ 受益者の保護者に対して留意事項

- ①車椅子は貸与されたもので適合しなくなったら現地団体に返却すること。
- ②次の人を思い、車椅子のほこりやごみなど取り除き、常に清潔に使うこと。
- ③快適な乗り心地とタイヤ破損を防ぐために、常にタイヤに十分な空気を入れる。
- ④車椅子を使う時は、いつもブレーキなど安全に使うことを心掛けること。
- ⑤故障したらほとんどの自転車店は修理できるので、直してもらう。
- ⑥自転車店が近くにない時は、破損のまま放置せず、現地団体に連絡すること。

File No: _____

AGREEMENT
on wheelchairs provided by Japanese NGO

Child with Mobility Difficulties

1. Full name: _____ Sex: male/female _____
 2. Date of Birth: _____ Age: _____
 3. Address: _____ Tel: _____
 4. Education level: _____
 5. Cause of being handicapped: _____

Wheelchairs rented Plate No. _____
 Receiving date: _____
 Rental period from / / 201 to / / 20

We, the undersigned, agreed as guarantors that

i) We and our child shall use it properly and responsibly with utmost care to develop our child physical movement and to socialize with the others, keeping in mind that other children may still use it.

ii) We will request you to repair in case of any damage or breakdown, without leaving aside, being unrepaired.

iii) If our child shall no longer need it, we undertake to return back it to the association without notification

iv) We shall neither give it to the other, nor dispose it.

Names and Signatures of the Guarantors _____

Date: _____



日本の NGO としての当会ロゴと 日本からの贈り物であることを表す日章旗のステッカー

当会の提供するすべての車椅子に、当会ロゴと日章旗のステッカーと管理番号を貼付しています。(サイズ縦 8cmX 横 5cm)

このステッカーには日本の車椅子の提供者・支援者・ボランティアの人々からの愛を込めた贈り物であること "From Japan with Love" を表しています。



事業の上位目標と期待される効果

障害児が車椅子を活用することによって、自由に移動や外出ができるようになります

- ア) 身体機能と座位保持の正常化
- イ) 身体的・精神的な健康の向上
- ウ) 生活環境の改善
- エ) 自立支援と社会参加への助長
- オ) 家族・介護者の負担軽減

を図ることができます。この効果として、地域ぐるみでのリハビリ治療、教育、職業訓練など、幅広い継続的な社会開発プログラムの発展が期待されます。

Ⅲ 海外事業のモニタリング調査と評価報告

現地での車いすを受け取った子どもの家庭を訪問して



ラオスのビエンチャン郊外



エチオピアのデシエ地区

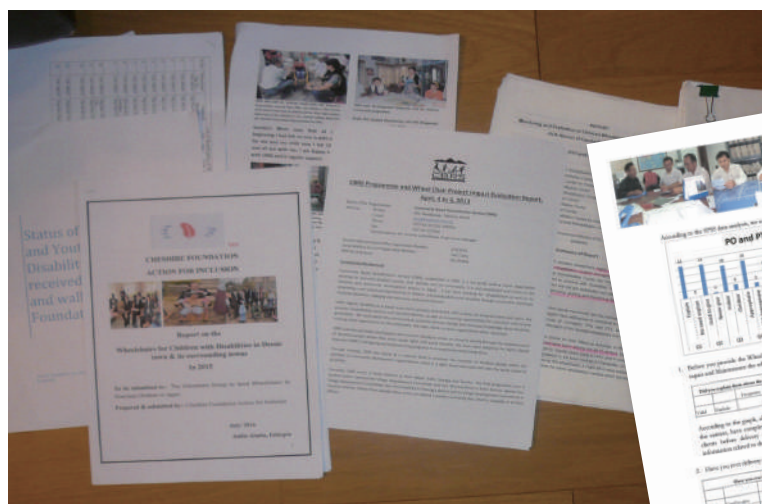
車椅子効果の成果を測る指標のために海外パートナーが調査実施した例

総合評価として A=20ポイント、B=10ポイント、C=0 として合計ポイントがA(80以上)=優れた成果、B(40以上)=良い成果、C(40未満)それ以下=成果が乏しい、として総合評価する。

- | | |
|----------------------------|------------------------------------|
| 1. 子どもが座位を保持し、筋肉や骨の矯正の助長 | A 十分助長できた B 助長出来ている C 助長できていない |
| 2. 屋外に出て新鮮な空気を吸い、紫外線にあたる頻度 | A 大変多くなった B やや多くなった C あまり増えていない |
| 3. 子どもの通学や通院 | A 行ける様になった B やや行ける様になった C 依然と変わらない |
| 4. 家族の介護の負担 | A 大いに軽くなった B 軽くなった C あまり変わらない |
| 5. 友達や地域の人との交流 | A 大いに増えた B 少し増えた C あまり増えていない |
| 6. 車椅子の状態 | A 良好な状態 B 不具合なところがある C 修理の必要あり |

海外パートナー選定基準

1. 原則として、ODA 援助対象の発展途上国で活動する団体であること。
2. 当会のミッション、目的を理解し賛同して当会と協力して活動できる団体であること。
3. 利益を目的としない NGO、財団、地方自治体、病院、養護施設などの組織団体であり、政治的、宗教的活動を主たる目的としない団体であること。
4. 輸入に際して、輸入許可、輸入税免税申請などの手続きを行い、関係当局と折衝し認可を取得できる事務能力がある団体であること。
5. 確実に現地で受け入れて、(当会とともに、あるいは、当会に代わって) 責任を持って無償で必要度の高い病院、養護施設、リハビリテーションなどに適切に供与できる団体であること。
6. 当会に代わって(あるいは共同で)、現地で引渡し式(贈呈式)を行い、当会の国際協力貢献を広報できる団体であること。(当会の支援団体に対する義務と責任があるため)。
7. 現地で必要度の高い受益者団体(養護施設、病院、リハビリセンターなど)を選定し、適切な維持管理ができ、適確に使われているか追跡調査できる団体であること。
8. 国際理解と協力を効果的に推進し、日本の NGO や日本人の使命の背景や考え方などを的確に理解し、迅速かつ柔軟な対応が出来て、多少でも日本との関係がある団体であること。
9. 当会と上記の内容について確認の覚書を交える団体であること。



海外パートナーからの報告書の一部



海外パートナーからの報告書・コメント・提言

1. 車椅子で筋肉や骨の発達が改善した。体に合って使いやすい。
2. 家族の介護の負担が軽減した、地域の人との交流も増えた。
3. 遠くへ行きたいが凸凹道や湿地では、使いにくく前輪が壊れやすい。
4. 子どもが大きくなったら代りが必要になる。継続して支援してほしい。
5. 地域の人々の障害に対する理解が深まった。

主な海外のパートナー（2019年3月現在）

国	団体名	概要
マレーシア	東方政策元留学生同窓会（ALEPS）	日本との文化交流事業 車椅子製造。整備工場運営（ドリームファクトリー）
ベトナム	ベトナム赤十字	赤十字本部を通じ各省支部の障害児へ
フィリピン	JVR（教育福祉）財団	経営者育成教育。給食提供など福祉支援事業 障害児支援団体・施設などに対する支援
インドネシア	CBR・開発訓練センター・ソロ	1990年アジアで最も古い CBR 団体 地域に根差したリハビリと啓蒙活動（pprbmsolo.org）
タイ	タイ肢体不自由者協会	1982年設立。タイ肢体不自由者支援団体全土ネットワーク、 大人用車椅子工房、学校運営
カンボジア	社会福祉省 障害者支援局	障害者問題の行政立案企画、各省リハビリテーションセンター・ NGO に対する行政指導・監督
ミャンマー	国立リハビリテーション病院	障害児のリハビリ専門病院。 補装具整備工房あり
ラオス	ラオス障害者支援協会	2009年設立。全国障害児の教育支援・人権擁護 (acdalaoss.weebly.com)
ネパール	CBR サービス・ボカラ	1995年設立。支援活動のほか、義足製造・車椅子修理作業所 (cbnsnepal.org.np)
インド	JVS 障害者支援協会	1997年設立。インド北西部を中心に活動 (janvikassamiti.org)
エチオピア	チェシャ財団	1985年設立。エチオピアで最大障害者支援の NGO (cheshireservicesethiopia.org)

Ⅳ 車椅子を安全に、長く、効果的に使ってもらうために

車椅子の正しい使い方を絵で示したカードを添付して届けています。



車椅子の使い方

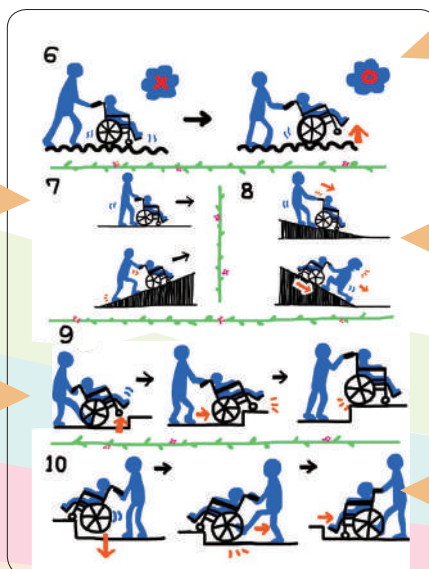
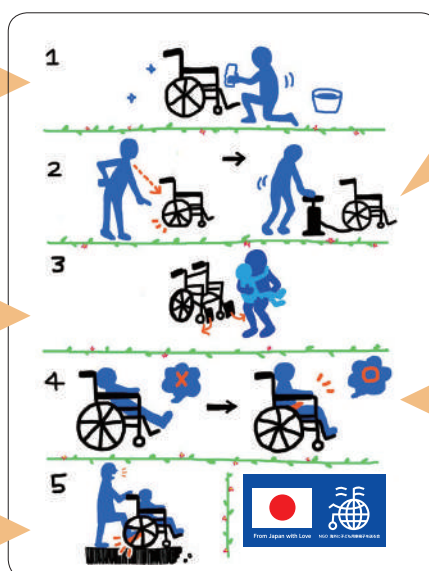
日常的に車椅子につく泥や汚れを取り除き、きれいに手入れしておく。

乗せるときはブレーキをかけ、ステップを上げて座らせる。

止めるときは声をかけて止め、フットブレーキをしっかりかけておく。

坂道を上るときは、押し戻されないように体を前倒して押す。

段差を上がるときは、車椅子を前向きに、キャストを段に乗せて、後輪を押し上げる。



使用前にタイヤの空気の点検をする。タイヤが破損せず長持ちするよう、そして、心地よく乗るために空気をいつも入れておく。

落ちないように深く座らせ、ベルトを装着する。背筋が伸び、椅子へ体圧を分散させるよう座らせるのが望ましい姿勢。

めかるみや凸凹道ではステッピングバーを踏んでキャストを上げながら静かに押していく。

緩やかな坂道では車椅子を引くように進む。急な坂道は後ろ向きで車椅子を引くように進む。

段差を降りるときは、車椅子を後ろ向きに、後輪を降ろす、キャストを上げて後ろに引き、キャストを降ろす。

車椅子を届けた家族を訪ねて

当会は現地で車椅子が必要な子どもに届いているか、どのように活用されているか家庭を訪問して確かめています。



インドネシア ソロ



ベトナム タンホア



フィリピン ビガン



カンボジア シェムリアップ



エチオピア デシエ



ミャンマー ヤンゴン



インド バラナシ



ネパール ボカラ



エチオピア デシエ

「日本の皆さんありがとう。お礼を伝えてください。」

「素晴らしい車椅子を貰ってから生活が変わった。今まで家の中の床でただ横になっていただけだったが、外に出られ人と会えるようになった。」

「家族の負担が減って家事などの仕事がしやすくなった。」

「家の中で一番の宝ものだ。」

「容易に戸外に出られて、新鮮な空気に触れ、日光浴が出来て大喜び」

「友達が遊びに来てくれたり、助けてくれるようになり、明るく元気になった」

NGO としての活動の成果と自己評価



インドのJVS 障害者支援財団で
車椅子贈呈式のあと日本への
感謝を込めてグループ写真撮影

I

CBR（Community Based Rehabilitation＝地域に根差したリハビリテーション）による 障害児支援活動への参画

当会は海外で個人ごとに車椅子を提供するのではなく、各国で CBR 活動を実践しているパートナーと連携して提供された車椅子が地域全体の問題を解決していくツールとなるプロジェクトを行っています。

発展途上国では障害児の 80%は農村部に居住しています。しかし医療機関は都市部に集中しているために医療機関で治療を受けることができるのは、全体の 1 割にも満たないのです。

CBR は 1980 年代にから WHO などの指導でアジアやアフリカに広まった考え方で、障害のある人たちが暮らしやすい社会をつくるには、障害者やその家族だけが行動するのではなく、地域の人々が一緒に問題を解決していこうとする考え方で、都市部の施設中心のリハビリテーションでなく、障害児の多い農村部で「地域に根差した包括的な開発」を目的としています。

- 当会は CBR 活動をしている団体に対して障害児用車椅子を提供することで
- ☆地域のソーシャルワーカーやボランティアがリハビリの技能を習得して障害児の自宅訪問したり地域の集会所などで医療を容易に受けることができる。
 - ☆家族にマッサージの方法を指導して家で適切な施術ができて、車椅子によって筋肉や骨の矯正を助長できる。
 - ☆地域の祭りや集会などへの社会参加が容易になり、多くの人との交流が生まれる。
 - ☆地域の人との交流によって、障害に対する理解を深め、啓発活動によって差別や偏見をなくし、共に生きる社会をつくることことができる。
- このようにして、地域ぐるみの社会開発に貢献しています。

II

持続的なプロジェクトのために 車椅子の修理整備の技術指導とノウハウ提供

現地でのワークショップの開催、修理手順のマニュアルによる指導、修理部品の無償提供（本冊子 16 ページ参照）を行っています。

III

モニタリングによるプロジェクトの効果と評価の実施

車椅子を引き渡した後、どのように活用されているか適切に維持管理ができているか、コミュニティにどんなインパクトを与えているか海外パートナーと受益者の家庭を訪問してプロジェクトの検証と評価をして今後に生かしています。（本冊子 10 ～ 11 ページ参照）

IV

成果を測る指標

受益者数（100 台を供与した場合）は、直接的には車椅子を使用する障害児 100 名ですが、体の成長に伴い、当該車椅子が適合しなくなると、他の障害児に引き継がれ受益者は増えます。

間接的には、障害児が車椅子を使用することによって、介助が容易になり、家庭や施設の職員にとって負担が大幅に軽減されます。

介助者（1 家族 5 名 $\times$ 100 = 500 名 病院・リハビリセンター職員約 10 名の負担が軽減されます。そこで受益者の合計は 610 名となります。

V

草の根レベルで国際交流の推進と人材の育成

当会が毎月行っている例会には企業やシニアのボランティア、大学生、高校生をはじめ障害児を持つ母親、そしてベトナム、エチオピア、ネパールなど在外日本人のボランティア 50 名以上が参加して、車椅子の洗浄や整備と梱包の作業をしながら国際交流の輪も広がっています。シニアのボランティアや車椅子の専門家は青少年に修理や整備の指導をしたり、海外へ送る手続きや海外のパートナーとの情報収集やコミュニケーションの取り方などを指導し、若者はスキルアップにも励んでいます。

例会での活動に参加した大学生は、現地での引渡式に参加し障害児の家庭を訪問し、現地の実情を見聞して、国際貢献や福祉について学んでいます。



持続的発展的なプロジェクトとして 車椅子の修理整備の技術指導と ノウハウの提供

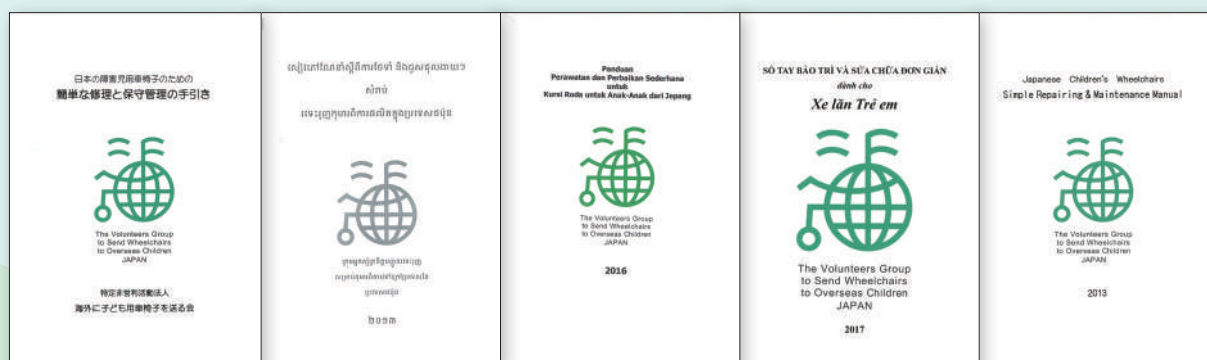
1. ワークショップの開催による技術指導

当会は贈呈式などで現地を訪問する時に車椅子の管理責任者を対象に、車椅子の修理整備の方法、維持管理のポイントなどの知識を実践的に修得してもらうために必要に応じてワークショップを開いています。



2. 修理マニュアルによるノウハウ提供

車椅子を適切に修理が出来るように現地語で分かり易く説明したマニュアルを作成し、ワークショップの資料や日常修理の手引きとして活用してもらえるように配布しています。内容は、車椅子の手入れの仕方、タイヤ・前輪・足置きステップの交換、ブレーキ、ステップの交換方法、虫ゴム交換などです。



日本語

クメール語

インドネシア語

ベトナム語

英語

3. 治工具や修理部品の無償提供

海外の当会パートナーとは覚書で、修理に必要な部品を迅速に無償で提供することを約束しています。そのために当会のすべての車椅子に管理番号を付けて車椅子の写真とデータを海外パートナーと共有して迅速で的確な修理が出来る仕組みを作っています。

車椅子の提供から次のステージへ

当会は車椅子を提供する際には、現地で車椅子の保守や修理が出来るように、海外のパートナーに対して車椅子の整備のノウハウを伝え、必要に応じて修理部品や治工具なども無償で支給しています。各国が車椅子を必要とするすべての子どもに支援できるようになるためには福祉政策の充実と現地で車椅子を製造することが必要条件です。

現地製造のための技術指導や製造ノウハウの提供をして社会経済開発に貢献していくことを活動の次のステージとして目指します。

さらに、障害児支援のパートナーの要望を受けて、障害児に対するリハビリ治療の技術や自立支援のための職業訓練のノウハウを提供し、包括的な障害児支援プロジェクトに取り組んでいきます。



当会の技術支援で子ども用車椅子の整備と製造工場が軌道に乗ってきたマレーシアの ALEPS Dream Factory



自立支援のための職業訓練施設



物理療法によるリハビリ指導

当会は地域の実情とニーズに合わせて

☆車椅子の使い方と維持管理の指導

☆地域ボランティアによるリハビリの巡回指導のためのノウハウ提供

☆教育及び職業訓練で自立を目指す指導研修のためのノウハウ提供

☆障害に対する啓発活動のための集会セミナーの開催

等を支援して、当会のプロジェクトが一層効果あるものとなるよう努力していきます。

車椅子プロジェクト Q&A

Q なぜ子ども用車椅子に特化している NPO なのか？

日本の障害児用車椅子は障害児の症状や体形に応じて作られる医療器具です。子どもの状態によってリクライニング装置を付けたり、正常な筋肉や背骨の発達を助長するためにクッションを付けたり、飲食や読み書きができるように机をつけるものもあります。受注生産のため 1 台当り 20 ～ 30 万円しますが国の補助制度で 1 割負担で入手できます。（厚生労働省規定耐用年数 6 年） 一方、大人用は介助移動が目的です。海外では中国・台湾製や自国製の簡単な鉄製の車椅子は 1 ～ 2 万円位で入手可能です。日本から整備費や輸送費を掛けて送るメリットはなく、当会は付加価値が高く途上国では容易に入手できない障害児用車椅子に特化しています。

Q モノを贈るのではなく、現地で製造できるような自立支援をすべきでないか？

途上国への支援はモノを与えるのではなく、作り方のノウハウを提供し自立支援を促すのが国際協力支援の原則であることを十分踏まえた上で、当会は緊急に途上国の子ども達の命を守るために NGO として今すぐ国の課題をリサイクル事業によって解決して 国際人道支援のためのプロジェクトを行っています。

➡日本の障害者への補助制度が改定され、高価な車椅子が廃棄されずに資源を有効に活用できようにするための課題がどう解決されるのか？ 一方発展途上国が自国で車椅子を製造し、車椅子の必要な障害児に安価に支給できる福祉制度が確立されるのはいつか？ それまで待てない障害児をどう救済するのか？ 当会は事業を通じて当該国の行政が障害児用車椅子の必要性を理解して、障害児に車椅子を自国で生産し補助する政策を実行するように啓発し提言していきます。

➡その間、当会は車椅子を送るだけでなく、必要に応じて車椅子を修理し整備するためのワークショップの開催、修理手順マニュアルによる指導、修理部品の無償提供などの支援をしています。

現地の要望に応じて現地製造などの社会経済開発に必要な技術指導研修も行っています。障害児用車椅子がそれぞれの国で安価に車椅子を必要とする全ての子どもが入手できるようになれば、当会の車椅子を送る役割が果たされたことになるでしょう。

Q 現地の子どもが成長して車椅子が適合しなくなったらどうするのか？

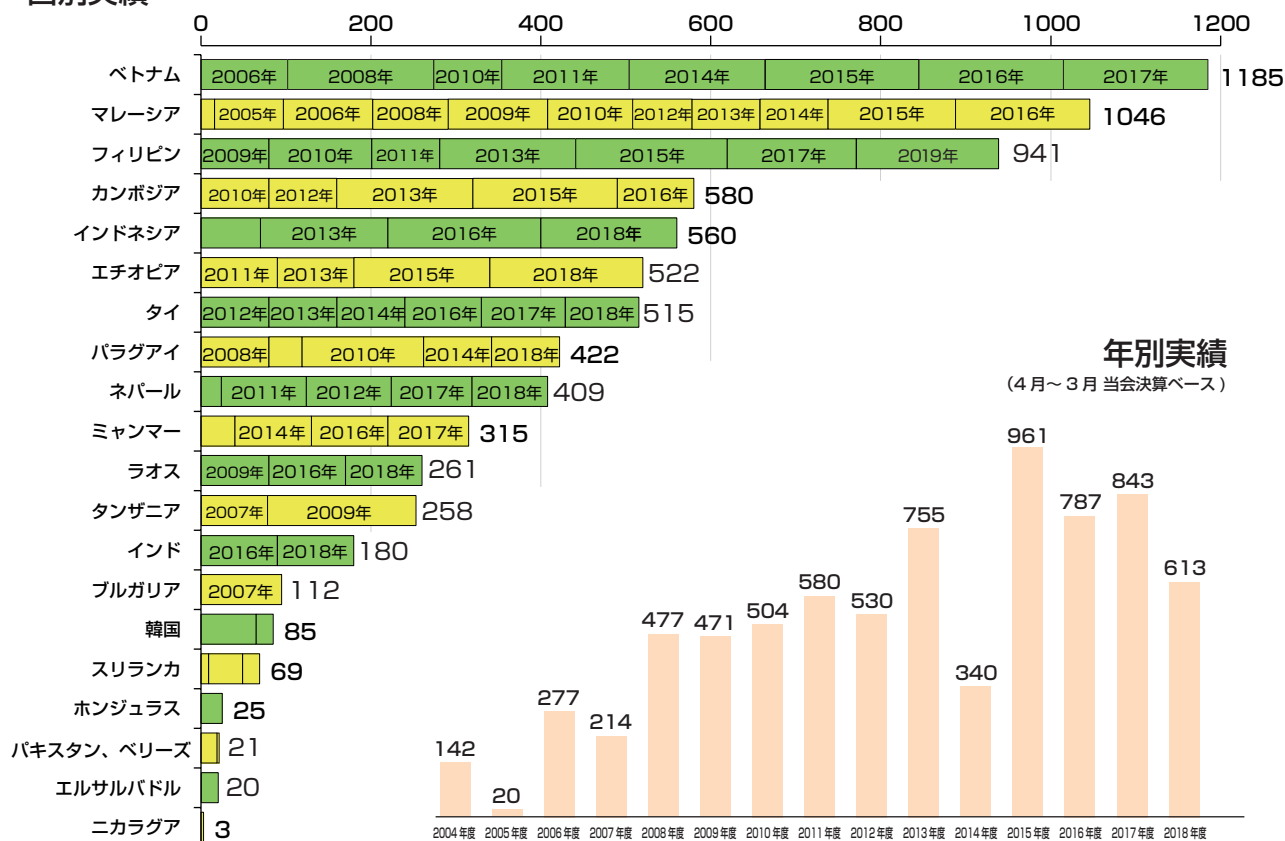
海外では理学療法士などの指導で、当会の供与した車椅子に適合した障害児に無償で貸与し、当該障害児が成長し適合しなくなった場合には、次の適合する障害児に渡すよう保護者と貸与契約を交わしています。日本から提供する車椅子は全てサイズも機能も異なります。当会は海外パートナーに継続的に車椅子を供与し、その地域の車椅子を必要とする障害児が適合する車椅子を引き続き選択し利用できるように配慮をしています。

数字とメディアで語る 当会の活動内容

I 贈呈実績

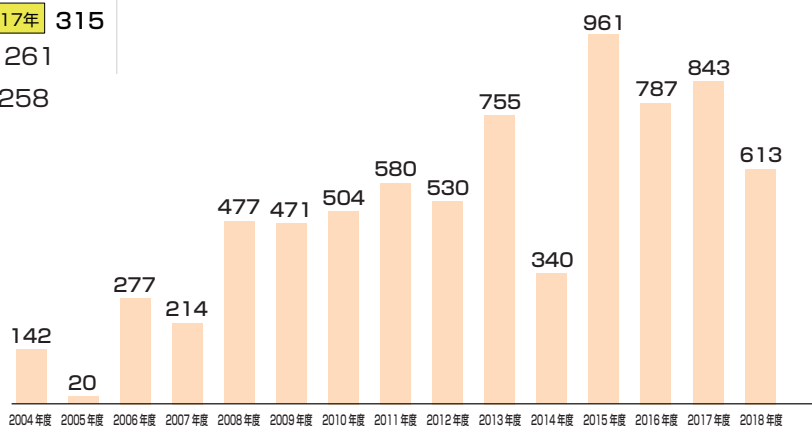
(2019年3月現在 総数: 7,529台)

国別実績



年別実績

(4月～3月 当会決算ベース)



II 車椅子 1 台を海外へ届けるには約 1 万円かかる (過去実績から平均計算)

その内訳は

収集費	梱包費	整備費	国内及び海上輸送費	現地通関配布費
15%	5%	30%	35%	15%
1,500 円	500 円	3,000 円	3,500 円	1,500 円

III 当会の活動資金

これまで 10 年間の総収入累計金額 7260 万円 その内訳は

会費	寄付金	民間助成金	公的助成金
4%	43%	21%	32%
252万円	3,113万円	1,507万円	2,321万円

公的助成金は外務省日本 NGO 無償資金協力金

福生のNPO会長・森田さん

収集した中古の子ども用車いすと森田祐和さん



余命宣告で「他人の役に」
家中で自由を奪われている子どむに光と風を届けたい
「NPO法」「海外支店」とも用母情を交える(『東京市』)
親戚金上りなどに車いすを無償で送り始めて2年。1日にバラク・オバマの来日となり。目標の10人を超えるまでに。会
の森田祐和さん(49)が賛意をきつめけに、自らの命を懸けた活動の船出だった。(上林祐)

[illegible][illegible]

▲朝日新聞2008年9月18日

[illegible]

子供用車椅子のコンテナ積み込み
作業を手伝う森田祐和会長（左）
三湖村市緑ヶ丘

産経新聞 2006年5月30日

海外に子ども用車椅子を送る会

主催：福祉文芸が不足している外国に子ども用車椅子を送る会。現在は毎月27日（土）の毎月第2土曜日に開催しています。

会員約80人。事務局は武蔵野区東山分庁（042・541・2240）。ホームページは<http://www.kurumi-sa.net/cx/>

海外に子ども用車椅子を送る会。現在は毎月27日（土）の毎月第2土曜日に開催しています。

会員約80人。事務局は武蔵野区東山分庁（042・541・2240）。ホームページは<http://www.kurumi-sa.net/cx/>

「使い捨てはおかしい」

[illegible]

「海外の子に車いす」着々

成長で買い替えの不用分 3年で649台



病に学び「光届けたい」

福生のNPO

[illegible]

読売プルデンシャル福祉文化賞
「車椅子送る会」に奨励賞



子ども用車いすを整備する森田さん(中央)と、活動を目指す二男の健也君(左)

第二回読売アルプス登山大会新聞社主催
読売と登山事業の促進
の要請に、福生のNFP
法人代表「海外」で乗車
椅子と乗車券は選ばれ、
会長は森田多治とさん49
は「活動多治とさん」に知
に合わせ、早ければ今年ほ
いと言った。

どで新調されるが、障害の程度で仕様が異なり、購入費の大半が公的補助の対象になることから、使用後は廃棄されるケースが多いという。



▲ネパール



Aktivitas Anak Difabel Lebih Leluasa

W/A Post MAY/03/2016) II itu akan lebih banyak berakronis setelah •Roda AASIR... 12/11

▲インドネシア



▲カンボジア



▲カンボジア



▲インドネシア



▲カンボジア



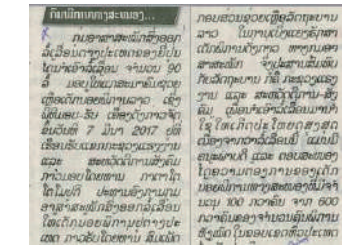
▲ラオス



▲タンザニア



▲インド



▲ラオス



▲タイ

マレーシア、ベトナム、インドネシア、カンボジア、インド、ラオス、タンザニアなどのテレビや新聞で報道されました。

(すべての絵 <http://kaigaikurumaisu.org/support/pictures/>)

日本の皆さんが大切に使った車椅子を、海外の子どもに届けるときには、皆さんの動ける喜びを分けてあげたいという暖かい思いを伝えています。人生ではじめて車椅子に乗ると興奮し、嬉しさのあまり涙を流して喜んでくれます。日本の立派な車椅子を見るのも初めてで、お母さんは家族の宝物だ、大切に使うと約束してくれます。

このたび、海外のたくさんの国のお友達が、日本のみなさんに感謝の気持ちを伝えたいと、絵を描いて送ってきてくれました。海外の友達が心を込めて描いた絵から、言葉の壁を乗り越えて子どもたちの喜びや感謝の気持ちがよく伝わってきます。日本と海外の子ども達との心の結びつきが生まれています。

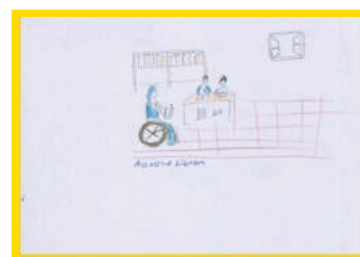
皆さんが他の人にはできないすばらしい国際支援と交流活動をしていることを大変うれしく思うとともに、私たちの会がお手伝いができることを誇りに思います。海外には車椅子が手に入らず不自由な生活で困っているお友達がまだたくさんいて、車椅子を待っています。是非これからも皆さんの車椅子を提供してください。

以下は送られた絵の一部です。すべての絵は当会のホームページから見ることができます。

(すべての絵 <http://kaigaikurumaisu.org/support/pictures/>)



エチオピアの子どもたちからの絵



タイの子どもたちからの絵



フィリピンの子どもたちからの絵



ネパールの子どもたちからの絵



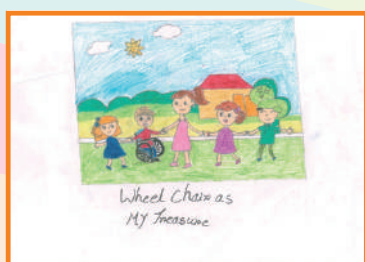
パラグアイの子どもたちからの絵



ミャンマーの子どもたちからの絵



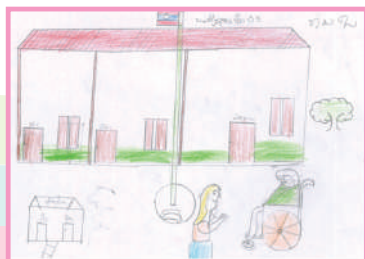
インドの子どもたちからの絵



マレーシアの子どもたちからの絵



ラオスの子どもたちからの絵





海外に
子ども用
車椅子を
送る会

ご
寄
付
の
振
込
先

郵便局から 郵便振替口座 00130-9-389966 海外に子ども用車椅子を送る会

銀行から りそな銀行 福生支店 口座番号 4145946
口座名 カイガイニコドモヨウクルマイスヲオクルカイ モリタヒロカズ
海外に子ども用車椅子を送る会 森田祐和

特定非営利活動法人 海外に子ども用車椅子を送る会

〒197-0012 東京都福生市加美平3-7-13 Tel 042-553-2342

Email info@kotobukiya.com URL: www.kaigaikurumaisu.org